

JIS 青銅合金 鋳造用地金

JIS H 2202
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町宇田暮 2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949
販売元

ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116

東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115(代)
FAX 06-6782-3143

63S・D粉 銅・真鍮粉

(株)アイコー

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市渋川町2-9-27
本社 (06)4307-0600

三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルミセンター (0595)45-6510

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半カ年 44,100円(前納) 3カ月 22,050円



橋本 健一郎氏

輸入はスクラップが減少

・アルミニウム 橋本健一郎氏リポート②

大輸出は二次合金とスクラップが

【概況】七月前半、欧州懸念の震源地ギリシャでの議会でIMFの融資を受けるための関連法案が可決一定の安心感がでたものの、中国人民銀行の利上げや米格付け会社ムーディーズがボルトガル債の格付けを四段階引き下げた事、中国の四～六月のGDPが九・五%増と二桁成長でなかつたこと、またP

M I 指数(消費者物価指数)が五〇・九と二八カ月ぶりの低水準だったことから、二、四七二ドルと二、五〇〇ドルの大台を切った前半締めとなつた。後半はEU一七力国首脳会談でギリシャに対し一兆円の追加融資が決定。米FRBがページュブック(地区連銀報告書)で各地区的景気減速について触れるものの、米連邦債務切り上げ問題からドル安が加速、金が最高値更新銅が急騰する中、アルミにも投機資金が流入。結果、上記の連邦債務問題も合意に至り、七月四日現在 LME(現物後場)二、六一八ドルの大幅上昇スタートとなつた。

【前月の経済指標】

- ◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比五一・六%増の七四万二、四三一台であつた。
- ◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は七・三%増の二四万一、四七二台。
- ◆三ヶ月間の自動車生産計画は昨年対比六・四%減の二三万四千台(二面へ続く)

第2四半期の産銅量は増加

チリのアントファガスタ

チリの鉱山会社アントファガスタの二〇一二年第2四半期の産銅量は二五万八、七〇〇トンと、前年同期の二三万五、二〇〇トンから一七%増加した。エスペランサ鉱山での増産が寄与した。一方、ペソ高などを背景に、コストは上昇した。産銅量は、中核鉱山のロスペランブレスの生産不振やエスペランザの拡張プロジェクトで抑制された前四半期比では、二二%超の増加。アナリストは、この産銅量がおおむね予想と一致したと述べた。同社は通年の産銅量が六二万～六四万トンになるとし、エスペランサのプロジェクト進捗が予想より遅れ、下方修正した六月時点の見通しを確認した。

スクラップの相場 据え置き～五円上昇の予測

LMEアルミニ相場は底堅いか

(一) 一面より続く

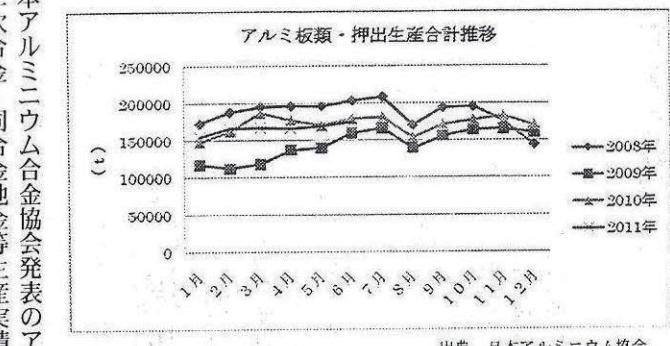
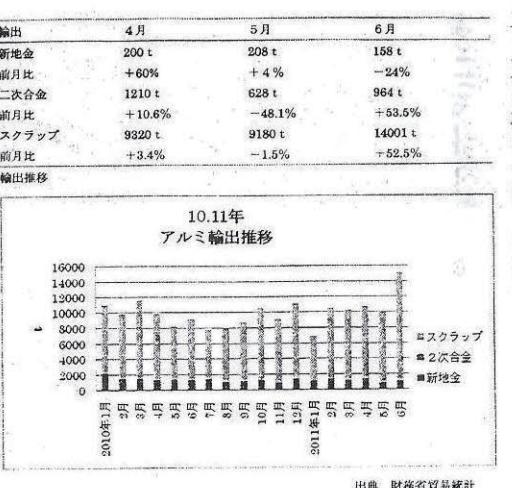
◆新設住宅着工戸数 国土交通省によると、新設住宅着工戸数は

前月比（季節調整済み）○・三%増（昨年比五・八%増）の七万二、六八七戸であつた。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ新地金が前月比二四%減の一五八t、二次合金が五三・五%増の九六四t、スクラップが五二・五%増の一四・一〇〇t。

輸出推移

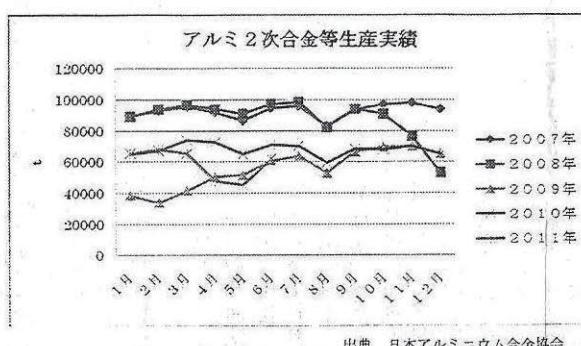
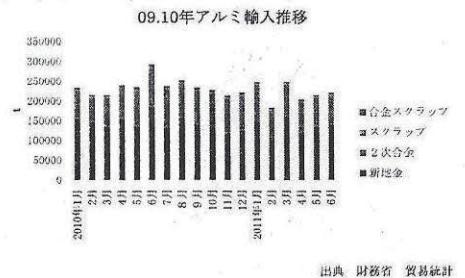


【前月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比三・四%増の一七万四、七七二t（昨年対比二・二%減）。

輸入は新地金が前月比三・六%増の一三万九、三六〇t、二次合金が二%増の七万六三六五t、スクラップが二九・四%減の五六三t、合金スクラップは一四・七%減の三、〇七八t。

輸入	4月	5月	6月
新地金	12万 647t	13万 4567t	13万 9360t
前月比	-25.2%	+11.6%	+3.6%
二次合金	7万 7881t	7万 4891t	7万 6365t
前月比	-3.9%	-3.8%	+2%
スクラップ	882t	797t	563t
前月比	-4.8%	-9.6%	-29.4%
合金スクラップ	4323t	3607t	3078t
前月比	+4.9%	-16.6%	-14.7%
輸入推移			



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比三六・四%増の六万一、八五四tであった（昨年対比一二・七%減）。（六面に続く）

(二面より続く)

【見通し】

前月に続き、自動車生産を中心回復の月となつたが需要の伸び悩みによる調整も感じられる月となつた。

自動車生産は前月比五一・六%増の七四万二千台と急回復！前年比も一四%減と前月の三一%減から大幅改善した。

しかし国内自動車販売二四万一千台で前月比七・三%増と伸び悩み、前年比一八%減と前月の二三%減から小幅悪化した。

自動車関連のアルミニ二次合金生産は前月比三六%増の六万一、八五四t。昨年対比は一三%減。

仮設住宅による復興需要が見込める圧延・押出品生産数は季節調整済みで前月比二・二%減。

新設住宅着工数は季節調整済みで前月比〇・三%増の七万二千戸台。前年比で五・八%増と大幅改善。
輸入塊は上海シグマが七月末現在で一、五五〇ドル（プラス五〇）、ロシア塊は一、四〇〇ドル（プラス八〇）と上昇している。
輸入はスクラップ一九%減、合金スクラッ

プ一四%減（共に前月比）と減少。

LME価格について、米連邦債務引き上げの合意でファンダメンタルズはある程度回復基調にあるが、中国の利上げ懸念、米欧経済の不安定を考慮すると若干上値を抑える形になるが、通貨自体への不信感が台頭する中、コモディティ（商品）自体への資金流入が期待でき、電力問題などや内需で供給懸念が台頭している中国需要も出てきており、予測を切り上げ二、五五〇～二、六五〇ドルを予測。

アルミニ原料需要・価格に関して、前月から一転、最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産台数は前年比一四%減まで回復しているにも関わらず、七月の販売台数が前年比で二八%減と予想外に伸び悩み。ただ貿易統計上輸出が大幅増加していることから需給は安定。
LME価格で五〇～一〇〇ドル程度下落していることから、七月後半価格から据え置きく五円上昇の予測。

ドル・八〇円台に定着するかが焦点

円高再燃も米景気の減速懸念など拭えず

政府・日銀による円売り介入を受け、四日の外国為替市場は前日比で一時約三円の大幅減速などの懸念は消えておらず、市場関係者な円安・ドル高となつた。ただ、米国の景気減速などの懸念は消えておらず、市場関係者との見方が少くない。市場では「一ドル八〇円台が定着するかどうか」（大手邦銀）に焦点が集まっている。

市場の一部には、今回の介入で円安基調に転じるとの声がある。介入に合わせて日銀が追加緩和を決めたことから、投機目的で円を買っていたヘッジファンドなどに「サプライズを与える、円を売り戻す効果が期待できる」（シンクタンク）ためだ。

一方、円高の根本的な要因となつた米国の景気減速や国債格下げに対する懸念は払拭（ふつしょく）されていない。「五日発表の米雇用統計が市場予想を下回れば、再びドルが売られる」（国内証券）公算は大きい。
また、最近の円高局面を受けて、多くの国内企業が想定為替レートの水準を一ドル＝八〇円に設定した。「円相場が八〇円に迫れば、輸出企業の円買い・ドル売りが待つている」

◇KLT Mすず相場
五日 二五・五〇〇

三八

トントン
米ドル